

# イノシシの被害対策

地域で防げるイノシシの被害



## イノシシの生態と特徴

生態を知って被害を防ごう

### ■ 身体能力・行動の特徴

#### ① 学習能力は高い

本来用心深い動物ですが、おいしいエサがある場所はよく覚えます。無意識の餌付けは被害をエスカレートさせます。

#### ② 植物中心の雑食

雑食性で、ミミズやコガネムシの幼虫なども食べますが、植物性の食物を中心に食べます。

#### ③ 持ち上げる力、潜り込む力が強い

鼻先で土を掘り起こしたり石を動かして、エサを探します。70kg程度の石を動かす力があり、柵なども下部を掘って潜り込み侵入します。

#### ④ 嗅覚も視力も良い

嗅覚が良い動物ですが、エサを探すときには視力にも頼ります。そのため電気柵にトタン板を組み合わせるなどの目隠しが有効です。

### ■ 生活や繁殖の特徴

#### ① 1歳半くらいで出産

メスの性成熟は1歳半頃で、年1回春に4~5頭の子供を産みます。

#### ② 母親と子供のグループで行動

通常、母親と子供を中心とした小さなグループで活動し、雄は別行動します。

#### ③ 比較的狭い縄張り

行動範囲は比較的狭く、被害を与えるものは、その農地周辺に住み着いている可能性が高いです。



## イノシシの農作物被害

食害だけでなく、収穫前の水田を踏み荒らしたり、畦を掘り返して壊すため、被害金額も高くなり、農業経営に大きな負担となります。



# 三重県内のイノシシの分布と農作物被害の状況

## ① イノシシの分布と被害状況の関係

出猟者の目撃効率<sup>(注)</sup>から、鈴鹿山脈～大台山系と、県内に広く分布していることがわかります。

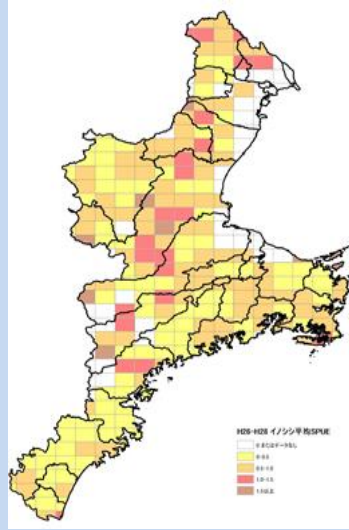
特に、水田と山が混在する伊賀地域などで目撃効率が高く、生息密度が高いと考えられます。

また、目撃効率が高い地域ほど、農業被害が大きくなっています

密度(目撃効率)と被害程度には強い相関関係があります。

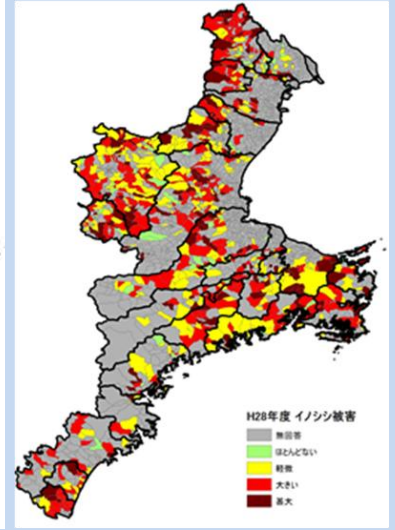
注: 「目撃効率」とは、出猟報告から算出した出猟者1人あたりの平均目撃頭数。密度や生息頭数の指標になります。

### ■イノシシの目撃効率



H26～H28三重県出猟報告データより

### ■イノシシによる集落の被害状況



H28集落代表者への農業被害に関するアンケート調査より

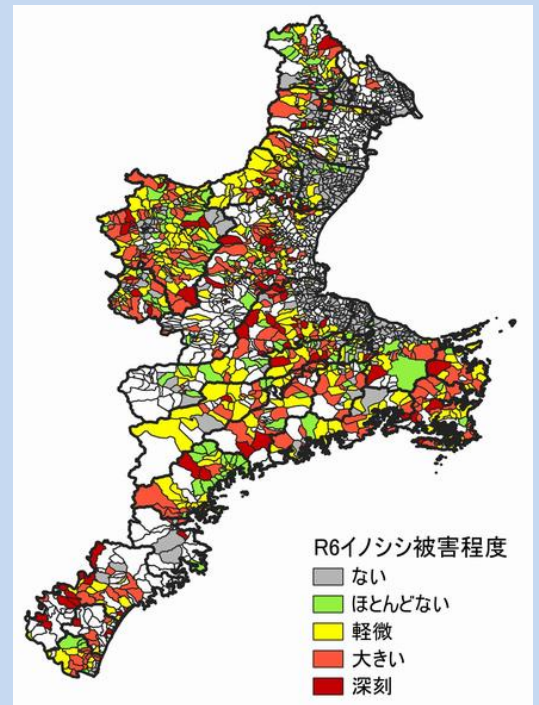
## ② イノシシによる県内集落の被害状況

イノシシの被害は、県内のおよそ800集落で発生しており、そのうち、その被害を「大きい」、「甚大」と感じている集落は、およそ500集落あります。

水稻の踏み倒しなどは被害金額も大きく、営農の大きな負担となっている状況です。



### ■イノシシによる集落の被害状況



R6集落代表者への農業被害に関するアンケート調査より

# イノシシの被害対策

## イノシシを寄せ付けない集落づくりを！



- ① 無意識の「エサ」をなくす → 収穫残さなどをなくす
- ② 隠れ場所を減らす → 茂った藪や耕作放棄地などを減らす
- ③ 正しく囲う → 出来るだけ広範囲に、電気柵などを正しく設置する
- ④ 正しく捕獲する → 農地に出没する「犯人」のイノシシを捕獲する

### ①無意識の「エサ」をなくす

稲の収穫後の「ヒコバエ」(刈り株からの再生穂)や、野菜などの収穫残さなど、集落には、イノシシを誘引してしまっている無意識の「エサ」が沢山あります。



ヒコバエを食べるイノシシ

### ② 隠れ場所を減らす

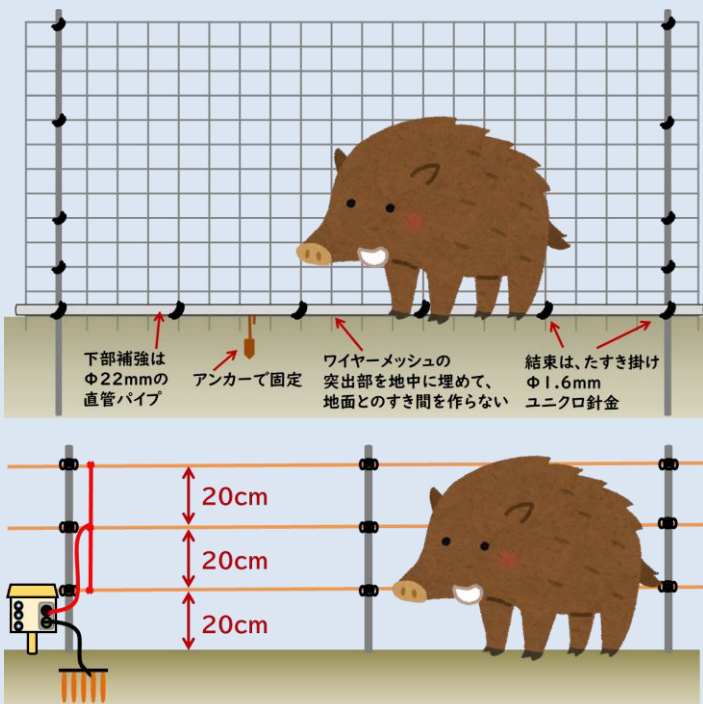


イノシシの潜み場になっている竹藪

見通しの悪い藪や竹林、茂みや耕作放棄地は、イノシシが安心して集落に近づける要因になります。

### ③正しく囲う

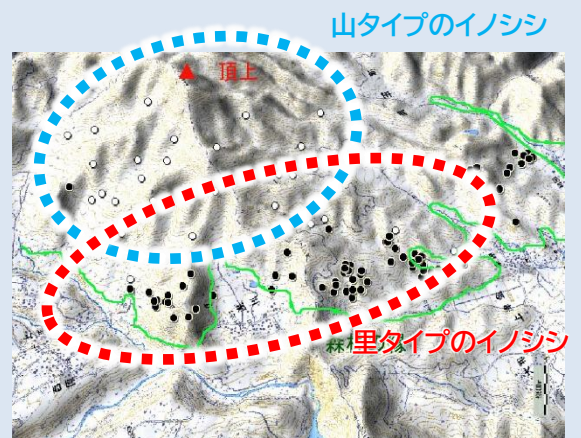
柵の下部の隙間が大きいと、イノシシは潜り込みます。柵を正しく設置し、イノシシが侵入できないように隙間なく囲うことが重要です。



注：電気柵は、適正な設置方法で十分に安全に配慮して設置してください。

### ④正しく捕獲する

イノシシの行動域を調べると、山中に生息するもの(山タイプ)と、里近くに生息するもの(里タイプ)に区分できます。被害の原因は農地をエサ場にしている「里タイプ」のイノシシで、これを適切に捕獲することが被害軽減に繋がります。



山梨県総合農業技術センター 本田氏 資料より

# 効果的なイノシシの被害対策の例

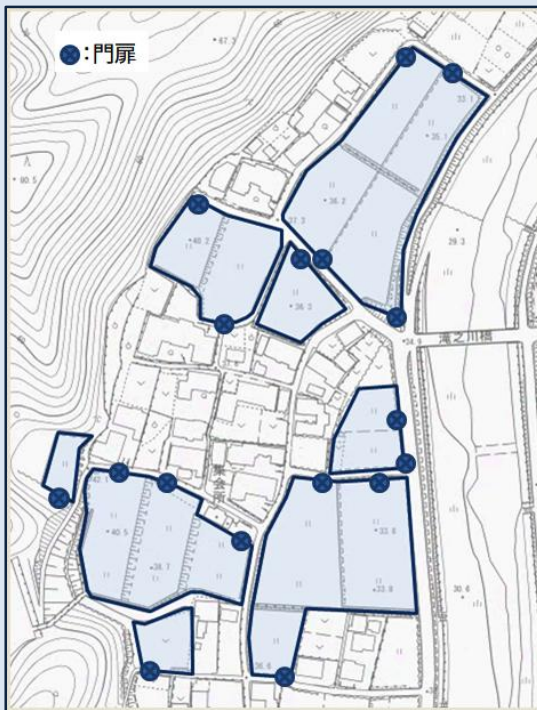
地域での取り組み例など

## ① 農地をブロックに分けて囲った事例（松阪市滝之川地区）

田畑全体をひとつの柵で囲うのではなく、小さなブロック単位として柵を設置しています。

こうすることで、囲うことのできない道路や水路がなくなり、そこからの獣の侵入を回避できます。

ただし、柵の延長距離は長くなり、必要なゲート(門扉)の数も増えるため、コストは高くなります。



背景図: 共有デジタル地図(三重県市町総合事務組合)M-GISから出力

## ② 囲いの工夫の一例



電気柵と目隠しのトタン板の組合せで、効果を高めています。



潜り込み防止のため、用水路にも電気線を張っています。

## ③ 隠れ場所をなくす取り組み例



クズなどが茂っていた荒地を伐採することで、イノシシの隠れ場所を減らしました。

## ④ 適切に捕獲する技術

檻で捕獲する場合、何よりも大切なのは、しっかりと餌付けすることです。



作成: 三重県農業研究所 TEL 0598(42)6356

発行・問い合わせ先: 三重県農林水産部獣害対策課 TEL 059(224)2017

(当資料はHPからダウンロードできます <https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/000051663.htm>)